

わくわく広場の保育とは どのようなことしているの？ ただ遊ばせるのと、保育とは何がちがうの？ 保護者の方へのお願い

わくわく広場では、できるかぎり、日本の自由保育の幼稚園と同じような保育をしようと努力しています。それは、人間関係の土台を作る保育です。それはどんな事かというと、人と一緒に遊べる子、友達と役割を持って遊べるようになる、友達の意見をきき、それを受け入れ、自分の意見も伝えられる子、を育てることです。

遊びの中では、みんなが共通理解をもって同じイメージをもって遊べるように補助しています。これは本当に難しいことです。よくよく遊びを観察してみると、同じ様にただ、みみずを探していても、ただミミズ探しをしている子、小人さんのお友達のみみずを探している子、沢山集めてミミズのお家を作ろう。としている子。いろいろです。 ばらばらなイメージを出来るかぎり、みんなで同じイメージで遊べるようにもっていくのが保育のひとつです。

けんかもわくわくでは沢山させます。お友達とトラブルになるのは出来るだけ親としては避けたい事です。できればみんなと仲良く遊んでほしいと思います。でも、トラブルこそが子供達が「こんな時はこうすればいいんだな」という人との付き合い方を学ぶチャンスです。そのトラブルは本人でなくても友達のトラブルを見ても学ぶ事が出来ます。「こんな時、あの子はこうして上手くいった」「ここでもめてもしょうがないな」「泣いても何も解決しない」「あの子が言っている事はちょっとずるいな」「自分だったらこうするけどな」など、色々な事が経験として子供の中に蓄積するのは自分や友達のトラブルをどう解決していくか。という経験を積む事です。

お父さん、お母さん、先生に自分の嫌だった気持ち、悲しかった気持ち、悔しかった気持ちを素直に話してくれるのは幼児期だけです。 幼児期の今なら、子供の気持ちによりそいながら、「次はこうしてみようか」「こうやったらうまくいったね」など先生や親から人との付き合い方のアドバイスができます。 この時期を逃すと子供が自分の困った事や、気持ちを親や先生に隠すようになってきます。 そうなると困った事があったときの対処の方法の指導が難しくなってきます。

トラブルこそ今一番子供達に経験してほしい事です。だから自分の子がトラブル続きの時はラッキーと思ってくださいね。

お願い(重要)

わくわくの子供同士のトラブルなどは必ず保育の前に私にメールでも口頭でもいいのでお知らせください。

子供同士の関係が深まっていくと、いろいろなトラブルも発生します。時にはB君が「A君がいつも僕の事を仲間にいれてくれない」「A君がいじわるする」「A君がいるからわくわくにいきたくない」などと言出す事もあります。お母さんとしては、A君のお母さんも同じクラスの自分の友達だし、先生に他のお子さんの悪い事を証拠もないのにすぐに言うのも言いつけるようで気が引ける。しかも、自分の子供の勘違いかもしれないし、A君のお母さんも気を悪くするかもしれない。。。。少し様子を見よう。と皆さん思うと思います。

でもこのような時は、必ずすべてお知らせください。わくわくは毎日の幼稚園ではないので、一回一回がとても大切です。その週を逃すと一週間あいてしまいます。

お母さんが様子を見ている間に何週間も経ってしまうと、何のトラブルで何が起こったのか、子供自身も忘れてしまいます。せっかくの学びのチャンスを一つ逃す事になってしまいます。

私が保育中にB君の思いを知っている上で、A君とB君の関係や遊びを観察しながら言葉かけをするのと、全くそれを聞いていないのでは、全然保育の内容が違ってきます。関係がぎくしゃくすることは大人でもある事です。我が子が大きくなった時、誰かと人間関係でぎくしゃくした時、その状況を上手く乗り越えていけるような人間に育てるのが親と先生の役目です。

時にはそれは全くのB君の勘違いの事もあります。ただの被害妄想的にどんどんみんなに意地悪をされていると思っている場合もあります。自分は嫌われているから。と勘違いしたまま所属している団体から抜けてしまうのか。誰かに相談するのか。勇気を出してA君に聞いてみるのか。意地悪をされた。と思った時にどんな行動をとるのか。B君にも学ぶ所は沢山あります。

A君側も、実は大人が見ていない所で本当に意地悪をしてることもあります。それがばれてみんなから今度は自分が仲間に入れてもらえなくなることもあります。

まったく覚えがないのに、B君にそう思われてしまっていることもあります。それを知った時、「あいつは僕の悪口を言った嫌な奴だ」と他のみんなを巻き込むのか、「勘違いさせてごめん。」とそんなつもりはなかったと弁明するのか。誰かにこの状況を相談するのか。言われのない悪口を言われて落ち込むのか。その後どうするのか。

他の子たちも聞いてみると、実はA君とB君のトラブルをよく知っている子がいたりもします。そうゆう子が間に入るとの話合いになることもあります。

親から見ると、ちょっとした「あの子が嫌だ」といったトラブルでも掘り下げていくと、子供達のいろいろな面を見ることができます。そして親も「家の子はこうゆうときにこんな行動にでるんだ」とびっくりすることもあります。子供が自分を有利に見せるためにウソをつくのも成長のあかしです。明らかに嘘をついているとわかる時も「お 成長してきたな！！」くらいに思ってください。

幼児期だからこそ、間違った行動にでてしまってもすぐに修正できます。

「こうすればいいんだ」「こうしたらうまくいった」という成功体験を経験したり、見たりすることにより人づきあいの経験値がたまります。成功体験とは、何もないところから生まれません。何か乗り越える山があり、それを試行錯誤しながら試して失敗したり、成功したりします。

子供とその当事者の親同士だと、なかなか上手くいきません。でも先生という第3者が入る事によりトラブルはめったにない子供の成長のチャンスとなります。そんな経験も我が子にさせるためにお金を払ってクラスに来ているのです。だからお母様方は、自分の子供が辛い思いをすると、自分もつらくなりますが、「子供達がお互い学ぶ事が出来るチャンスがやってきた。」と考えて、すぐに私にご相談くださいね。

さくらんぼ組（1歳半-3歳半クラス）との違い さくらんぼ組 卒園の子のお母さんへのお願い

さくらんぼ組からわくわく広場に上がってきた子供たちも沢山います。さくらんぼ組では、お母さんと一緒に遊んだり、お母さんと楽しむ。と言う事がクラスの目標になっていました。ですから、一緒に遊んでもらうことがよくありましたが、わくわく広場では、子供たち同士の遊びを中心とした保育に切り替わります。子供たちが自分達で何かをやりだすのを待つ保育に変わるのです。ですから、今までの様に、お母さんのほうから、子供たちを誘って遊びを始めたり、

「これしようよ」などの遊びの提案はせず、じっと見守ってあげてくださいね。最初は子供たちも戸惑い、何をしたいかわからない事もあるかもしれません。お子さんが離れられない場合など、一緒に遊んだほうがいいときはこちらから指示をだしますので、よろしくお願いします。さくらんぼさんだった子供たちは成長し、一つ上のステップにレベルアップしました。これからどんどん遊びも高度になっていきます。楽しみですね。（わくわくでは子供達と一緒に外に出る必要はありません。（必要な時は声を掛けます）ゆっくりお茶をしてお待ちください）

子供の遊びとは。& 先生の関わり

例 おままごとコーナー。みんな勝手にただ遊んでいるだけと見える状況。最初の何分かはただばらばらにご飯を作って、並べて。の繰り返しです。でもただの平行遊び（同じ場所にいるだけで全員ばらばら）から、みんなで遊ぶやり方を学んでいる途中の子供たちと、すでにイメージをもって、高度な遊びができつつある子が混じっている中で、少し様子を見てみると、だんだんと、少し遊べるタイプの子が、「じゃあ、お電話するから、ここに取りにきて」とか、「今日はパーティーだからチケット作ろうか」なんて言い出します。

その時に、先生が、まだただ自分だけで遊んでいる子に、「パーティーだって。何つくろうか」とか、「もっと素敵にするためには、テーブルクロスひく？それともポスター書こうか」とか、「〇〇ちゃんは、コックさんってことでもいい？」など、その遊びに入れるきっかけを作っていきます。

そんな時、その遊びに入っていないなくても、遠くでみているだけの子、本をよんでいる子、ブロックをしている子、いろいろな子が保育室にいと、みんなそれぞれが、それぞれの様子をよく見えています。子供たちをよく観察していると、ただ本をよんでいただけなのに、全部ままごとでの、いきさつを知っていて、パーティーが始まったら、「僕もパーティーきたよー」なんてさっと入る子もいます。入らなくても、あんなことやっているんだな。と知っている事が大切です。反対にお店屋さんの子がブロックの子に「これも売ってもいい？」なんて聞きに行くこともあります。先生の役割は、他の子を誘ってパーティーに出かけたり、ブロックの子に「お腹すいたね。パーティーのコックさんに何か注文してもってきてもらおうか」と言って注文をして食べ物を持ってきてもらったり。。。外から見るとバラバラに遊んでいるように見える子供達を少しづつ気持ちの中で繋げていつの間にかみんなが同じイメージをもって一緒に遊べるように促したりします。

見守ってあげてください

自分の子がなかなか動きださないと、つい「〇〇してみたら？」とか、「〇〇ママみたいなー」とか言いたくなると思います。でも、ここはぐっと我慢してくださいね。

せっかくお金を払ってわくわくにきているのですから、先生に任せてください。もどかしいかとは思いますが、先生は子供が自分でやりだすその瞬間を待っています。

やらないけれど、見ているのは分かっているので、興味を持てるような言葉をちょっとかけて離れたり、その子の近くで色々な物でわざと遊んでみたり。。。その時がくれば、子供たちは必ず動きだします。心の中で「どうしようかな。やってみようかな。こっちにしようかな」なんて考えている時に、ママからの提案があると、それをすることになってしまいます。子供がまだ自分で動きださないのなら、何もしなくてもいいんです。他の子がやるのを見て、自分で考える。そんな機会は家でもなかなかありません。

それは現地校のプリアキンダーでも同じです。（現地校ではみんな同じものをするので）わくわくでは、子供たちが自分でやってみたくるように、先生が補助をしています。

何かができた時は、グループタイムの時にみんなに誰かが作ったものを紹介したり、「〇〇ちゃんは、こんな時こんなやさしい言葉をかけてくれたね」とか、「今日は〇〇ちゃんは初めてこんなことできたよね。」なんてさりげなくみんなに伝えます。そんな先生の言葉を聞きながら、「こんどやってみようかな」「僕もみんなの前でほめられたいな」なんて自分で思う事が大切です。

わくわくでは、できるかぎり、最大限の努力をして、自分で遊べる子を育てるきっかけをつくっていかうと思っています。

だから、お子さんが離れられなくて、保育室のすみに座ってみているお母さん方はできるだけ、何か自分がする事をもってきてください。（本や編み物など）何か子供たちに「ママこれして。」と頼まれた時、何もしていないと断りづらいたですが、「ママはこれをしているから」と言えるといいかな。と思います。ママのそばにいたい子はいてかまいません。せっかく来てるのに。と思うと思いますが、ママのそばでずっと他の子が遊ぶのを見ていた子も、必ず自分で動きだす日がやってきます。ただ抱っこをする時は子供の顔が壁にむくのではなく、必ず他の子供が見えるようにしてあげてくださいね。